

講義年月日 2006年7月10日(月)

講演者 加藤 好郎 氏 (慶応義塾大学国際センター事務長)

テーマ 図書館コンソーシアムとは：大学図書館のサービス充実に向けて

講義内容

1. アメリカにおけるコンソーシアムの実例  
ボストン図書館コンソーシアム：設立、事業内容、運営と組織  
トライアングル・リサーチ・ライブラリー・ネットワーク (TRLN)：  
事業内容、運営組織、協議会、4つの常設委員会、人的資源、資金、企画と評価、広報活動
2. なぜコンソーシアムが組みにくいのか  
大規模図書館の思い上がり、変化に対する抵抗、NIH (not invented here) 症候群、  
期待及び観念の相違、妥協できない狭い心、組織背景と文化の相違、  
図書館の独自性(特徴)の競合の矛盾、グローバルな視点での地域主義
3. コンソーシアム成功のための考え方  
学部(あるいは大学)レベルでの取り組み、ステップ バイ ステップ、持続と忍耐、  
利用者・図書館員に目を向けよう
4. International Coalition of Library Consortia(ICOLC)  
活動内容：150のコンソーシアムが参加 日本は国立大学図書館協会のみメンバー 年3回総会  
1998版声明：予算問題、知的財産権問題、保存問題、出版社の価格戦略問題、効果測定問題  
2001版声明：多様な価格設定と購入モデル、電子ジャーナルの利用の便と向上、長期的アクセス  
保証とアーカイビング  
政策展開：資料収集、資料組織化、資料提供、資料保存、図書館運営、基盤整備  
2004年9月総会の内容紹介
5. 図書館コンソーシアムが望んでいるビジネスモデル  
印刷体プラス 電子版プラスへの移行、印刷媒体の購読の自由選択、電子版の価格は電子版+印刷版の  
80%以下であること、キャンセル事項の排除、ピックディール、パッケージ取引等
6. SPARC (Scholarly Publishing and Resource Coalition)  
高騰する学術雑誌への対応策  
・高額な学術雑誌の価格引き下げ交渉と代替電子ジャーナルの発行支援  
・高額学術雑誌の編集者および投稿者への攻撃 ・学協会出版社に対する電子的手法の導入  
・プログラム参加図書館による新規雑誌の購入
7. SPARC JAPAN  
国立大学図書館協会電子ジャーナルに対するタスクフォース  
学会誌発行支援、NIIとJST(科学技術振興事業団)との共同事業
8. PULC (Private University Library Consortia)  
2002年Web of Science 契約の5大学からスタート 交渉版元 Elsevier Wiley Blackwell など  
私立大学では不利で実態と合わないFTE 契約の見直し
9. 教育研究情報共同購入機構  
実績：2003年度8億2千万円の文部科学省からの補助金 185大学採択  
目的：補助金の獲得と管理(監査対策)
10. さいごに  
ICOLCからJCOLCへ：国公立大学図書館をシャッフルした新たなコンソーシアムの立ち上げ  
内容：電子媒体の購入、相互協力(ILL、分担収集)  
近い将来：図書館員の育成・養成のコンソーシアム構築、公共図書館とのリンク  
コンソーシアム成功の条件：安定した財源確保、独立した組織構築、専門職としての図書館員の確保